

棚田 ライステラス

第3号 1996.7.1

(季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)

連絡協議会

編集／ふるきやらネットワーク・木村美江

〒160 東京都新宿区若葉1-6

エゼルBOX10

TEL 03-3355-0420/FAX 03-3355-4220

棚田を選んだ

特集：それぞれの理由



朝の棚田
(三重県紀和町)
撮影・原敏文

千枚田

千枚田

三重県紀和町の千枚田。

最盛期には、耕作田が二千二百四十枚あつたが高齢化や過疎化が進み、四年前には五百枚まで減つてしまつた。

平成のこの時代に棚田を失つてはご先祖に申し訳ない！

そう町民から声が上がり、地元農家で作られた千枚田保存会と紀和町役場が協力して、三年前から、荒廃した田の整備を進めた。機械が入らないから、ほとんどが手作業。

原野化した田に少しずつ手を入れ、生き返させていく。

平成六年には、丸山千枚田条例を制定した。

そうして今回、千百七十枚となり、文字通りの“千枚田”が復活した。今、丸山地区を訪れると、雄大に広がる千枚田一面に植えられた緑の苗が風に揺れる姿を見ることができる。

紀和町では、今後、千二百枚まで復田させることと、それを維持していくことを当面の目標にしてい

棚田を選んだ それぞれの 理

～ワケ～

棚田の保全策として、一番注目されているのが「オーナー制度」。米を作る場としてだけでなく、地元と都会との交流の場になっている。オーナーになった人たちは、棚田の景観に惹かれ、自然に惹かれ、地元人との暖かいふれあいに惹かれ、短い休日を利用して、数時間かけて棚田にやってくる。今までして、何を求めて棚田にやってくるのだろうか。

今年、新しくオーナーになった四の方々に、少しだけお話を聞かせてもらった。



●更埴市のオーナーによる田植え

山の上から棚田を見て、景観の美しさに、感動。もつともつと棚田を知りたい。

「今まで山の麓から見た棚

田しか知りませんでしたが、今回初めて山の上から棚田を見下ろして、郷愁を誘う、その景観の素晴らしさに驚きました。日本人の農の風景ですね。」

二十数年ぶりに故郷である更埴市に住み始めた記念と、子供たちに棚田での農作業を経験させたいと思って応募した後藤忠雄さん(40)は、オーナーになつた感想をこう話す。

【長野県更埴市では、今春から「棚田貸します」制度を始めた。料金は一〇〇平方㍍に当たり年額二万円で、十八区画が対象。六月二日に十七組のオーナーによる田植え実施した。市では今後、区画を増やしていく予定】

**自宅の周りの棚田が耕作放棄田に…。
紀和町の取り組みをこの目で見たい。**

業を通して棚田の本当の価値を見いだしたい。「棚田に接して、改めてその良さが分かった。次はそれを、父親として、教師として伝えたい」と后藤さんは考えている。

后藤さんは「効率では計れない、心で感じられる物がある」と答えていた。

「ずっと非効率なものはいけない、『儲かるか、損するか』という日本の風潮に疑問を持つっていました。だから経

島根県掛合町に住む落部憲一さん(68)は以前から、町民と町が協力して千枚田を維持しようという紀和町の取り組みに注目していた。だから、今年からオーナーを募集することを知つて、大喜びで申し込んだ。

「昔は自宅のある掛合町にも棚田がたくさんありました。

オーナー百人が参加した田

後藤さんは、農業理論や情報

処理などを教える専門家。

「とはいっても、米作りの実技についてはまったくの素人。だから新鮮な気持ちで取り組んでいます。」と笑う。また、オーナーになつたことで生徒から「なぜ金を払つてまで効率の悪い棚田で米を作るんだ」とよく聞かれるという。

念願だつた十数年ぶりの田植えを、憧れの棚田でじっくり堪能！

震災から一年半。自然に囲まれた棚田で、もう一度、生きることの喜びを味わいたい。

全国棚田(千枚田)連絡協議会 会員募集中

●お問い合わせは

協議会事務局・梼原町役場

(Tel.0889-65-1111/Fax.0889-65-0956)まで

阪神淡路大震災から一年半。生活の何もかもが変わってしまった。自宅の周りの木々の緑がなくなり、空き地が目立つ殺伐とした風景になつた。復興を急ぐ建設工事の音が毎日がなるように響き、空気も水も汚れた。心の余裕を失つたような猛スピードで走る車が、道路を行き交つてゐる。そんな殺氣だつた環境に、私たち被災者の心も病んでしまつた。何をどうしたらいいのか分からなくなり、くじけそうになつていていた時に、明日香村のオーナー募集の新聞記事が目に入つたんです。

兵庫県西宮市に住む寺坂和子さん(44)は、以前から明日香村の棚田の風景に惹かれ、時々訪れていた。その棚田で家族と一緒に、『心の復興』をしようと思い、応募をした。

「自然の中で、もう一度生きる喜びを味わいたいという

気持ちでオーナーになりました。美しく豊かな自然と地元農家や他のオーナーの方々とふれあつて、『安心して暮らす』ということだけたんだ』と久しぶりに感じました。今は、もっと村に溶け込みたい。そのため、ずっと『お客様』でいるので

はなく、農家の方々が何を望んでいるのか見いだし、積極的に支援していきたい。』

【奈良県明日香村では、今春、三十二組の棚田オーナーを決定し、「棚田ルネッサンス」制度をスタートした。一口、一〇〇~一五〇平方メートル、入会費一万円、年会費三万円。寺院や史跡がかもし出す田園風景が好評である】

阪神淡路大震災から一年半。生活の何もかもが変わってしまった。自宅の周りの木々の緑がなくなり、空き地が目立つ殺伐とした風景になつた。復興を急ぐ建設工事の音が毎日がなるように響き、空気も水も汚れた。心の余裕を失つたような猛スピードで走る車が、道路を行き交つてゐる。そんな殺氣だつた環境に、私たち被災者の心も病んでしまつた。何をどうしたらいいのか分からなくなり、くじけ

そうになつていていた時に、明日香村のオーナー募集の新聞記事が目に入つたんです。兵庫県西宮市に住む寺坂和子さん(44)は、以前から明日香村の棚田の風景に惹かれ、時々訪れていた。その棚田で家族と一緒に、『心の復興』をしようと思い、応募をした。

【三重県紀和町では今年、オーナー制度をスタートした。一口は、面積が約一〇〇平方メートルで料金は三万円。五月二十六日には、四十二組のオーナーが参加して田植え祭が行われた】

【三重県紀和町では今年、オーナー制度をスタートした。一口は、面積が約一〇〇平方メートルで料金は三万円。五月二十六日には、四十二組のオーナーが参加して田植え祭が行われた】

太郎さん(56)は、十数年前まで、一町歩ほどの田畠を持つ専業農家であった。しかし、地域の宅地化が進んだことで

群馬県玉村町に住む木村公太郎さんは、十数年前まで、一町歩ほどの田畠を持つ専業農家であった。しかし、地域の宅地化が進んだことで

田畠を失い、現在は一級建築士をしている。身近な田んぼと自然がなくなり、寂しく思っていた時に、梼原町のオーナー募集をラジオで知つた。

田畠を失い、現在は一級建築士をしている。身近な田んぼと自然がなくなり、寂しく思っていた時に、梼原町のオーナー募集をラジオで知つた。

田畠を失い、現在は一級建築士をしている。身近な田んぼと自然がなくなり、寂しく思っていた時に、梼原町のオーナー募集をラジオで知つた。

田畠を失い、現在は一級建築士をしている。身近な田んぼと自然がなくなり、寂しく思っていた時に、梼原町のオーナー募集をラジオで知つた。

田畠を失い、現在は一級建築士をしている。身近な田んぼと自然がなくなり、寂しく思っていた時に、梼原町のオーナー募集をラジオで知つた。

各地の棚田保全策

故郷の風景を守りたい!!

寄稿

“最高芸術”の大発見

志ネットワーク代表

上甲 晃

棚田を保全することを地域の活性化につなげていけたら」。そう考え、地域の特色と市民の声を生かした方法を見つけようと、自治体では、あれこれ知恵をしぼっている。

棚田を子供たちの「学びの場」に 【岡山県佐伯町】

石積みの棚田が、山裾から中腹にかけて階段状に広がり、美しい農村のたたずまいが残る佐伯町奥塩田地区。町では、

県と地元農家の協力で、棚田を教育の場として利用している。

始めたのは平成四年から。棚田の景観保全策として町役場が「農業体験学習として奥塩田地区の棚田を利用しませんか」と地元の山田小学校に持かけたのがきっかけ。一年生は棚田でイモ掘りを、

五、六年生は田植え（約四坪）を体験する。植えるのは県の推奨品『フクヒカリ』。

「大切なのは、手作業で行

う棚田での米作りの伝統と苦労を知つてもらうこと、裸足で田に入り自然を味わつても

らうこと、それと地元農家の方々との交流ですね。」と、山田小学校の橋本校長は話す。棚田のある奥塩田地区は、若者が離れ、高齢と過疎化に悩む地域。お年寄りの二人暮らしも少なくない。農業体験

学習は、お年寄りと子供、町民同士の交流の場にもなっている。「労力的には厳しい状況。今年はやめようかとも思った。だけど子供たちの喜ぶ顔が見られることが楽しみで……」といつ農家の方々の声も。

今年も六月十三日に、田植え実習が行われた。町では、「棚田保全を町の活性化に

なげていきたい。そのことで、子供たちが故郷に愛着を持ち、定着してくれれば」と期待している。

千々石の棚田は、私に強烈な衝撃を与えてくれた。案内役の（株）浜勝・元岡社長が棚田を目の前にして、私の耳元でささやいた。

「初めてこの棚田を見て、身が震えましたよ」と。その言葉のせいもあって、私も鳥肌立つ思いがした。何という見事さか。祖先から何代にも渡り、自然と調和しながら勤勉に仕事をしてきた人間の生き出す成果の美しさは、

何にも勝ると思った。欧州の田園風景に感動する日本人が多い。しかし、私は自然を支配下に置き、平らにならしてしまった欧州の田園風景より、山の形に少しも逆らうことなく勤勉に耕してきた棚田の方が、格段に美しいと感じた。これこそ、最高芸術だ。

棚田を守ることは、懷古趣味ではない。農業の素人のセンチメンタルでもない。戦後五十年間、日本人がひた走ってきた工業化社会、

棚田を美しい村づくりの材料に…【岡山県英田町】

英田町では、美しい町づくり事業の一貫として棚田の整備を進めている。一〇〇㍍ほどあつた『上山の千枚田』と呼ばれた美田が、減反や高齢化などの問題で一六㍍まで減

カイルーク（ラインガルテン（滞在型市民農園））を整備した。利用者は年間十二万円の借地料を払つて、棚田などの農地が含まれた土地を借りる。

（一区画七〇㍍二二〇坪）。完全無農薬だ。肥料代、機械

を作り『近畿英田会』会員などに販売している。品種は、

岡山県の推奨品である『フクヒカリ』と『オトメノコロ』。肥料は有機肥料と鶏ふんで、

三峡谷ダムの建設工事で、天下の奇觀を誇ってきた三峡が水底に沈んでしまうと聞き、見納めと思つて、先頃中国へ出掛けた。

揚子江川下りの船は、四川省の大都会・重慶から出る。飛行機が、山岳地帯にある重慶空港に向かつて着陸を始めた。下の景色を懸命に見る。「あっ、棚田」。思わず叫んだ。

その半月ほど前に、長崎県島原半島の千々石町で見とれたのと同じ棚田だ。ここでも、耕して、天に至つている。

千々石の棚田は、私に強烈な衝撃を与えてくれた。案内役の（株）浜勝・元岡社長が棚田を目の前にして、私の耳元でささやいた。

「初めてこの棚田を見て、身が震えましたよ」と。その言葉のせいもあって、私も鳥肌立つ思いがした。何という見事さか。祖先から何代にも渡り、自然と調和しながら勤勉に仕事をしてきた人間の生き出す成果の美しさは、

何にも勝ると思った。欧州の田園風景に感動する日本人が多い。しかし、私は自然を支配下に置き、平らにならしてしまった欧州の田園風景より、山の形に少しも逆らうことなく勤勉に耕してきた棚田の方が、格段に美しいと感じた。これこそ、最高芸術だ。

棚田を守ることは、懷古趣味ではない。農業の素人のセンチメンタルでもない。戦後五十年間、日本人がひた走ってきた工業化社会、

新
員
会
に
な
り
ま
し
た
!

福岡県浮羽町

福岡県の南東部、筑後平野の東端に位置する浮羽町は、林野庁の「水源の森百選」や環境庁の「日本名水百選」にも選ばれているとおり、水と緑豊かな自然の宝庫です。昨年度はグリーンツーリズムのモデル推進地区にも選ばれ、町民あげて美しい町づくりを推進しているところです。

町の農業は、地形的に中山間地域、山麓地域、平坦地域に大別され、「ふるさと農業活性化推進協議会」を中心に、それぞれの地域で特色ある農業政策がはか

られています。

中山間地域には約二〇〇haの水田があり、そのほとんどが石積みの棚田です。その中から特に石積みのきれいな葛籠(つづら)地区の九haの棚田を、モデル地区に選び、景観保全のための活動を開始したところです。

今回の入会を機に先進地域の皆様方の事例を学び、景観保全のための条例づくりに活かしていきたいと考えております。

●浮羽町役場

福岡県浮羽郡浮羽町大字朝田582-1

TEL 09437-7-2111/FAX 09437-7-7820

担当 産業課 今村 清

つてしまい、「このまま原野化したら、村の景観が失われるだけでなく、災害の危険も出てくる」と危惧したことがあきつかけだ。

保全策の一つとして、町では荒廃した棚田を整備し、都会の人たちにのんびりした田舎暮らしと棚田での農作業を楽しんでもらう施設『英田ス

宿泊施設は利用者が自費で建てるかログハウスを購入する。地元では地権者十七人が管理組合を結成し、利用者に野菜作りの指導をしているほか、利用者がいない間は棚田の手入れをしている。

また、朝晩の寒暖差が大きくなり病害が発生しないという風土を生かして、棚田天然米

代、労賃を考えると儲けはほとんどないが、「故郷の自然を守りたい」と、地元農家は話している。

さらに今年は、整備をした二ヶ所の棚田と、二ヶ所ほど続く道べりにひまわりを植えた。悪条件が多い棚田を整備し、故郷の風景として残そうと、町の試みは続く。

四季に彩られた棚田の美と、守る人々の姿に感動…

写真集「棚田」に寄せられた声

2月の発売から、感動の声が続々と寄せられている。共通しているのは、何となく写真集を買ったのではなく、意味があったということ。それぞれが棚田に対して特別な想いを持っていた…。その中から少しだけご紹介。

●各地の棚田が四季ごとに紹介されていて胸を打たれた。1人のプロの視点ではなく、棚田に愛着を持つ大勢のカメラマンの想いが結集されているところがいい。味のある解説とコメントもいい。（徳島県男性65歳）

●表紙を見ただけで欲しくなった。すうっと深呼吸ができる本です。（埼玉県男性29歳）

●棚田で米を作っています。田舎の百姓はたいへんなんですよ。この写真集のように、米作りへの理解と暖かい目を向けてもらえるようなものを持ってました。（高知県女性55歳）

●写真ほど、山の中に住んでいたわけではないのですが、「懐かしい。気持ちがいい」という気分になれました。維持するのは大変なことだと思いますが、失くしちゃいけない風景ですよね。私にできることは何だろう…。（長野県女性26歳）

●美しい！とても美しい。そして悲しい。ノスタルジーではなく、美しさを通じ現代社会の成り立ちまで食い込む重い告発の本である。ぜひ外国にも出したい！（奈良県男性60歳）

●子供の頃、遊び場にしていた棚田も壊され田地になってしまった。この風景を後世に残したい。（茨城県男性49歳）

●懐かしく清らかな日本の風景。人の心の温かさが伝わってくるような棚田の写真集ですね。1頁1頁、拝見しながら心をほっこりさせてます。（兵庫県女性70歳）

●いろいろな棚田の姿を知り、一段と棚田への想いが強くなった。耕作者の御苦労を考えるとただ涙あるのみです。（北海道男性52歳）

●今、大学で農業を学んでいます。厳しい日本の現状で棚田を守ろうと頑張っている人たちがたくさんいることを知り、元気付けられました。（山口県女性18歳）

●子供達と一緒に見ました。四季の棚田は悲しいほど美しい。もう米粒は捨てられない。（福岡県女性51歳）

棚 ふるさとの手札



ふるさとの山あいに生きる「たなび」
自然と人が作り出した日本の原風景

●定価 1500円

●講談社刊

●ふるきやネットワーク編

※全国の書店にて発売中

すなわち経済性最優先社会から抜け出ることができるかどうかの試金石である。棚田を守る努力は、私たちの価値観を物質的繁栄、効率中心の社会から、「命を大切にする社会」へ転換させる意味があるのだ。私はそのように信じた。人は、自然に敬意を表し、ひざまづき、そして謙虚に、勤勉に働くなければならぬ。そうすれば、地球は、永遠に私たちを温かく受け入れてくれことだろう。

お問い合わせは…
西有田町役場
農林商工課
☎0955
(46)2111

第2回 全国棚田(千枚田) サミット・スケジュール

開催日 平成8年9月10日(火)・11日(水)
場所 佐賀県西有田町

今年のサミットの
テーマは、「棚田 未来を耕す
～都市との共生の中で」。
1年に1度、棚田を語り、棚田
の未来を考える会議です。
ぜひご参加を！

14:00~15:50 パネルディスカッション

テーマ
コーディネーター
パネリスト

『棚田・未来を耕す ～都市との共生の中で～』
岸 康彦(日本経済新聞社論説委員・農政ジャーナリストの会会長)
甲本洋子(コープさが生協理事長)／山口力男(阿蘇百姓村)
池田 覚(JA西有田組合長)／日本ごはん党代表【未定】
東京都世田谷区民【未定】／藤 寛(西有田町長)

15:50~16:00 共同宣言採択

16:00~16:10 クローズセレモニー

※7月1日現在のスケジュール
(予定)です
※表中は敬称略・申し込み順

編集後記

更埴市の棚田オーナー・後藤忠雄さんと一緒に、市内の中学校で英語の教師をしているアメリカ人のトムさんとモリーさんが田植えをしていた。2人に感想を聞いてみると、「今まで田植えとは、広大な田んぼで機械を使ってする、ダイナミックなものだと思っていた。こんな小さな田んぼで、そもそも手で苗を植えるとは…。びっくりしたけど楽しいし、山の上は気持ちがいい！」と、ベリーグッドを連発。秋の収穫の時にも必ず参加をすると張り切っていた。最近もアメリカにいるお母さんに写真を送り、「日本の農業の伝統」として紹介したそうだ。日本人としてちょっと誇らしかった。

お問い合わせは…
西有田町役場
農林商工課
☎0955
(46)2111

1日目

11:00~14:30

人ふれあい稲刈り体験交流会

11:00~12:00

全国棚田(千枚田)連絡協議会理事会

13:00~14:30

全国棚田(千枚田)連絡協議会総会
及び首長等会議

14:40~16:00

阿蘇百姓村尋常小学校西有田の棚田一般公開講座

18:00~20:00

棚田地域の交流会・棚田石垣なべ談義

2日目

9:30~10:00

オープニングセレモニー

10:00~11:30

基調講演 講師 木村尚三郎(東京大学名誉教授・国民生活審議会会長)
演題 耕す文化の時代(予定)

12:30~13:50

農山村と都市・共生のための
ミニ&ミニコンサート 出演 西有田少年少女合唱団
室内アンサンブル

14:00~15:50

パネルディスカッション

テーマ
コーディネーター
パネリスト

『棚田・未来を耕す ～都市との共生の中で～』
岸 康彦(日本経済新聞社論説委員・農政ジャーナリストの会会長)
甲本洋子(コープさが生協理事長)／山口力男(阿蘇百姓村)
池田 覚(JA西有田組合長)／日本ごはん党代表【未定】
東京都世田谷区民【未定】／藤 寛(西有田町長)

15:50~16:00

共同宣言採択

16:00~16:10

クローズセレモニー

※7月1日現在のスケジュール

(予定)です

※表中は敬称略・申し込み順

全国棚田(千枚田)連絡協議会

新しく会員になった皆様

▼正会員(自治体) 福岡県 浮羽町 町長 堀 万治

〔団体〕 石川県 連合石川輪島・鳳至南地域連絡協議会 正武田久夫

石川県 日本労働組合総連合会石川県連合会 鶩 苛 初美

長崎県 雲仙農業協同組合千々石支所 永木 泉

〔個人〕 京都府 大西 健夫 / 東京都 千賀裕太郎

広島県 比地原征昭

賛助会員

長野県 滝沢 一志 / 大阪府 山本 一

長崎県 牛嶋 正美 / 千葉県 井上 正行

東京都 西崎 直一 / 大阪府 中谷 洋

福井県 小野寺和彦 / 京都府 安藤 和雄

京都府 藤岡 和佳 / 広島県 信上 陽子

東京都 大江 秀則 (申込み順・敬称略)